

評価設計のためのワークシート ①

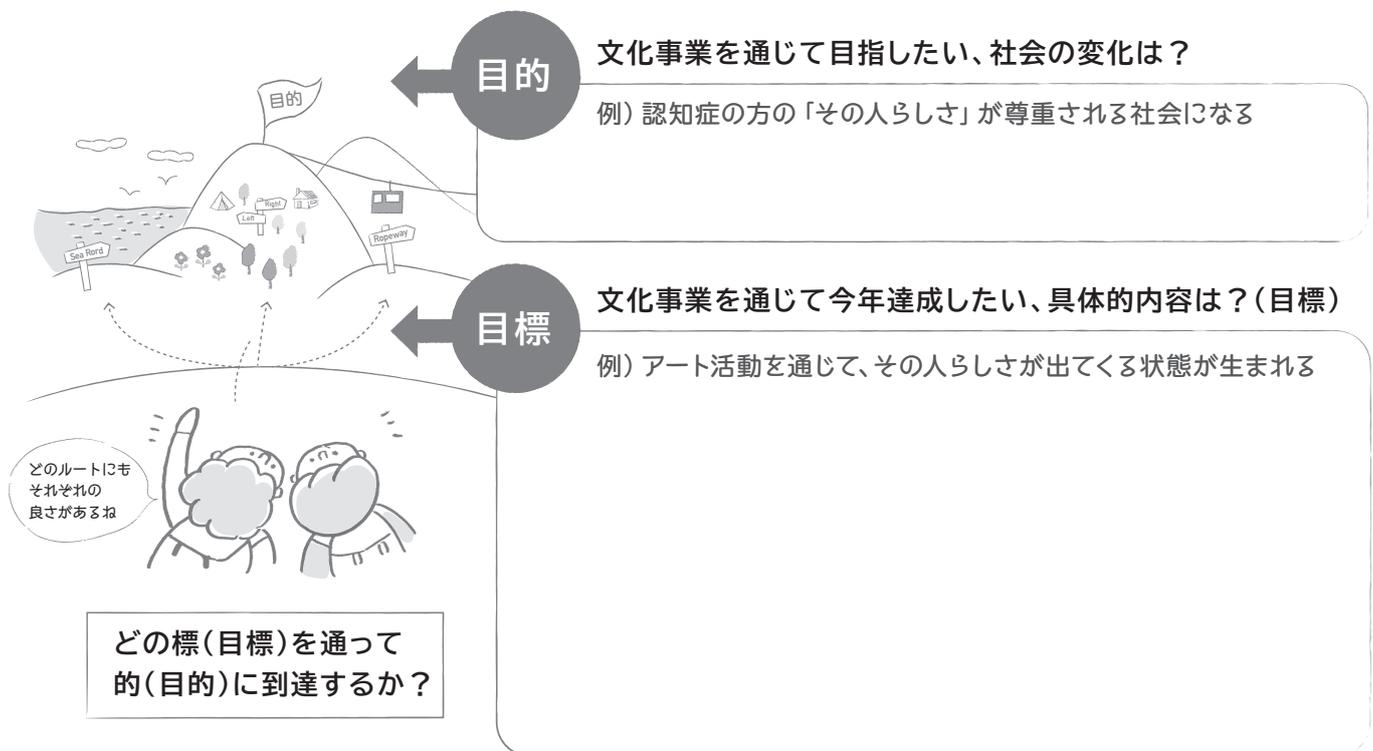
[参照] P.160-162

評価する対象となる文化事業タイトル:

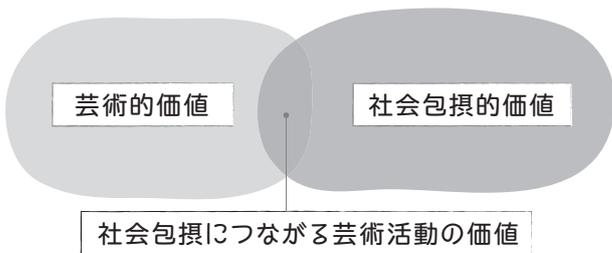
目的・目標を明確にしよう

評価をするために、文化事業の目的・目標を言葉にしましょう。

「いきなりそんなことを言われても…」と思うかもしれませんが、いったん書いてみる
ことが大事です。



目標は、「芸術的価値」と「社会包摂的価値」が重なるところ(下図参照)に設定することが大事です。評価に適した目標設定にするために、下記のことにご注意をしましょう。



BEFORE 参加者がアートのおもしろさを理解する

AFTER

アートを通じて、参加者それぞれがおもしろいと感じるポイントの違いを互いに理解する

CHECK!



「芸術活動によって直接変化が生まれること」にフォーカスして目標が設定されていますか？



目標達成の手段や、達成されたときのイメージは具体的になっていますか？

評価設計のためのワークシート ②

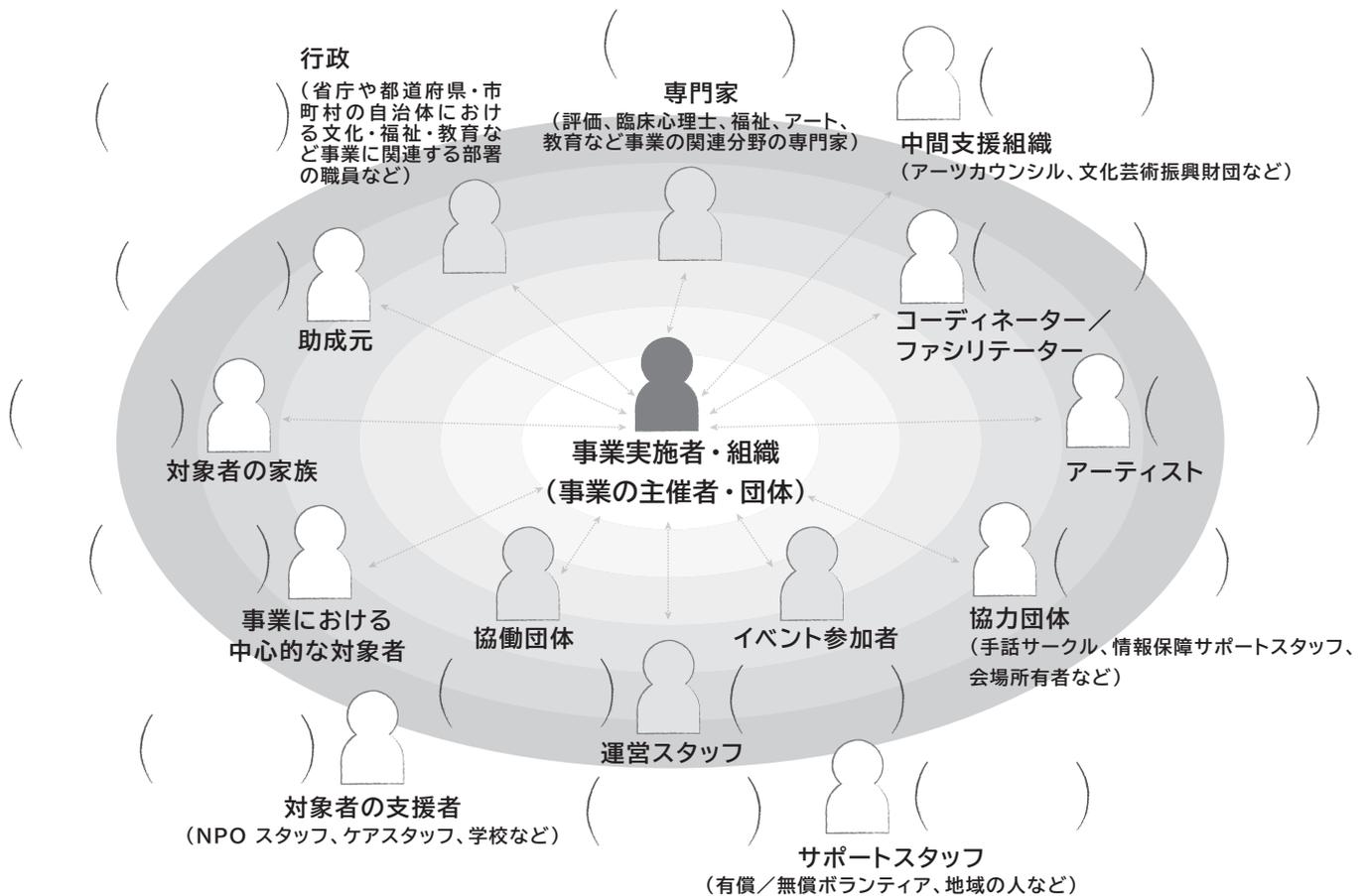
[参照] 4-2 / 4-4

関係者を書き出そう

今回の事業を行うにあたって、関係者を書き出してみましょう。関係者を書き出すことで、誰とのコミュニケーションが足りていないか、今後どのようなコミュニケーションを取ればよいのかが見えてきます。

- ①関係者マップに、思い浮かぶ名前や団体名を書き出しましょう
- ②すでに話せている人は実線でつなぎましょう
- ③変化を測るうえで、もっと声を聞いたほうがいいなと思う人には★マークをつけましょう
- ④事業をやっている最中や振り返りで改善に向けて一緒に対話をしたい人に♥マークをつけましょう

[関係者マップ]



左のワークシートで書いた「目標」と関係者マップを見渡しながら、チェックしましょう。

CHECK!



目標を達成するために必要な関係性がそろっていますか？
→事業の関係者たちと話しあってみましょう。



目標には、ここに書かれている人たちの主なニーズが反映されていますか？
→できていなかったら目標をもう一度関係者と振り返ってみましょう。

データ収集のためのワークシート ②

[参照] 4-3

いつ誰とどう記録を取るか計画を立てよう

いつ、誰とどのようにデータ収集を行うか、計画を立てましょう。

事業の流れに沿って具体的に考えてみましょう。

| | 組織の内部 | 関係者 | 参加者 |
|-------|-------|-----|-----|
| 事業実施前 | | | |
| 実施中 | | | |
| 実施直後 | | | |
| その後 | | | |

成果を発信するためのワークシート ①

[参照] 4-3 / 4-4

振り返ろう

(自分の団体以外の)誰と振り返るか、関係者マップを見返しましょう。
記録を参考にしながら事業を振り返りましょう。

●実施前と比べて、どんな変化がありましたか？

例) 認知症の方のその人らしさが、ワークショップの中ででてきて介護者も家族も驚いた。

●参加者や関係者からの声で印象的だったことを書き出してみましょう。

●社会や資金提供者へアピールしたいことは？

●今後の改善ポイントは？

